

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370200260		
法人名	社会福祉法人 慈孝会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 麗の郷なごみ		
所在地	二戸郡一戸町姉帯字下村24-1		
自己評価作成日	平成21年10月30日	評価結果市町村受理日	平成22年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0373200260&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0373200260&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3-19-1 岩手県福祉総合相談センター 3F
訪問調査日	平成21年11月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・礼節を基本とし、可能性を引き出しながら、その人らしさを大切にして、いつも寄り添ったケアを提供している。
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは、小鳥谷駅から東(葛巻方面)へ約3.5キロ、田園地帯を馬淵川の上流がゆったりと流れる、風光明媚な姉帯地区にある。建物は、余裕を持って造られ、特に共有部分が広く、利用者は、それぞれ自分なりの時間を過ごすことが出来るように配慮されている。台所も開放的で、さりげなく調理や後片付けの手伝いに参加できる雰囲気である。居室の窓からは馬淵川の流れや山々の四季の移ろいを楽しむことが出来る。また、敷地内には同一法人(社会福祉法人慈孝会)が運営する特別養護老人ホームがあり、ショートステイやデイサービスなどの事業も行われている。これら事業所との併設のメリットを最大限に活かして、季節の行事やレクリエーション、防災訓練、交流などが積極的に行われている。ゆったりとした施設の中で職員、利用者ともに和やかな印象である。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝のミーティングで理念・方針を唱和している。また、年度初めの会議で確認、周知している他、毎月末のなごみ会議で議題に取り上げて意識統一を図っている。	理念は「地域との価値の共有」「地域の人と自然を大切に」「地域への福祉文化の発信」である。これはこの地に生まれ育った理事長の、かつて水車が廻り、人々が集った特別な場所としてのこの地への思いを込めたものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近所の店に出向いたり、移動販売を受け入れている。・ボランティアを受け入れている。・法人主催の夏祭りには地域の方々や家族が参加して交流を図っている。また地域の団体が共同参画している。	ホームでは、春、秋のクリーンデイに道路や河川敷きのごみ拾いに参加したり、地域の老人クラブの方々を町の運動会等に送迎している。一方地域の方々は敷地内の草取りなどに参加するほか、同一敷地内で各施設が行う行事(盆踊りなど)に参加して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進委員会に地域の方々が委員として参加し、討議している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議での内容を月末のなごみ会議で報告しケアに反映している。	運営推進会議の委員は、各家族から9人全員のほか、地域の住民から3人、さらに地域包括、居宅介護支援事業所などから選任している。近年、開催回数が減少しているが、基準省令に定める回数の確保が課題であろう。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市町村で行われる研修会、講演会に参加している。 ・法人の広報誌「せきれい」を地元姉帯には各戸に配布している。	当ホームを含む法人内でのまとまった行事には町長なども参加している。また運営推進会議には、町からは必ず参加している。ホーム側からは、行事の案内や広報誌を配布して、連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・利用者の行動を制限しないよう心掛けている。	毎月一度開催する職員の会議「なごみ会議」では、ホーム運営のあらゆる分野について話し合いや検討が行われているが、その中で、身体拘束をしないケアの実践についても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・昨年の例：運営推進会議の場で包括支援センター側から高齢者虐待の一例が出され、緊急入所者として受け入れたケースがある。 ・包括支援センターから夜間休日の通報受け入れの委託を受けて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要性があったら支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前に十分な時間をとり説明した上で、契約書を持ち帰って熟読してもらった後、契約をとりかわしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情事、相談事受付ポストを設置。	年に一度アンケートを実施するほか、メールボックスの設置、面会時の懇談などで家族との意思疎通を図るようにしている。敬老会には大半の家族が参加している。	家族との1対1での対話の他に、家族同士の話し合いやホームと複数家族との話し合いの場も必要ではないか。大半の家族が集う敬老会の際にそのような機会が持たれることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月のマネジメント会議に参加しての場で可能。	法人の運営は月に一度のマネジメント会議で議論されており、ホームからは代表者が参加している。また、ホームでは月に一度の「なごみ会議」で、運営に関することも含めて話し合いが行われている。マネジメント会議の内容もここで報告される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・交流の場・趣味事をもつことを推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新人職員研修を初めとし外部研修はもとより、法人内での勉強会をを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会定例会への参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所申込の際にケアマネも交え聞き取りに十分に時間を取り記録。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所申込等の面談の際の対応を詳細にわたって聞き取るように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・そのように心がけながら日々の生活支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・通院日・誕生会等、家族を巻き込んだ声掛けを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・併設のデイサービスセンター、特養への行き来。 ・こだわっている理容店の受け入れ。	昔の仲間が訪ねてきて話をしたり、一緒に歌を歌ったりということがある。また、かつて一緒に通った人がいる併設のデイサービスセンターや、ホームから移った人のいる特養との行き来の中でも、なじみの人との交流が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・それぞれの個性を理解した上でいい状態で関わり合えるような配慮をする努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了となった後もその後の連絡、関わりを双方で取り合っている対象者もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・センター方式の勉強会を行い今後に取り入れていくところである。	昨年からのセンター方式の勉強会を始めているが、特に、月に一度の「なごみ会議」の中で、日常的な行動に注目しながら、個々人の情報交換を行い、本人の意向や希望に沿う介護に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式でシートを作成してケースに閉じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎月末の会議の場で一人一人について話し合い把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・一人一人の状態変化に応じた取り組みをしている。	「なごみ会議」での職員同士の話し合いを基本として、家族の意向や関係者の意見を踏まえたモニタリングの結果を記録表に整理している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎月の会議で情報を共有し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・特養がバックにあるため十分に活用できている。医療体制の確保。ボランティア、交流会、通院時の協力体制等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・要望していると思われることは可能な限り協力支援している。移動図書利用。ボランティア受け入れ等。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力病院があって家族に替わって通院サービスをしているが個々の希望の医療機関受診は家族対応で自由にできている。	協力病院は県立一戸病院である。診療科がない眼科、歯科は町内の他病院で対応する。1ヶ月に一度は通院デーを定めて、全員診療を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・併設の特養看護師による支援。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・こまめに面会し入院後も状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約書にも記載してあるが、特養がバックにあり対応している。	利用開始時に(入居時に)、口頭で、併設施設として特別養護老人ホーム慶寿園があり、重度化等の事態が生じればそちらに紹介するという話を話している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急蘇生の研修会。医務マニュアル準備。 ・医務研修での勉強会。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災訓練に参加。	月に一度の「なごみ会議」のつど、防災設備や避難経路の確認を行っている。法人としても年に二回、春、秋に消防署立会いの下に、防災訓練を行っている。	災害時の職員個々の役割、任務をあらかじめ明確に決めておくことにより、対策も効果的なものになると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・マニュアルがある。	重要事項説明書で、利用者の尊厳の確保が謳われ、羞恥心への配慮を含めたプライバシーの保護が規定に記載されている。また、「なごみ会議」で、折に触れ注意を喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の対応で特に大切にしている点である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人一人の個性を大切にした支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・昔ながらのなじみの理容店の来訪を受け入れ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・毎日の生活の中で共に行っている。	献立のメニューは、基本的に併設の施設(特養)と同じものだが、時に利用者の希望により独自の献立を作っている。特に、近所からの山菜や野菜の差し入れ、菜園で栽培した野菜の収穫などがある時は、それらを楽しみながら調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々のチェック表を作成、又状態に応じたチェック表を工夫する等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・一人一人の状況に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表に記入しパターンをつかみ対応。</li> <li>・その人に合わせ、時間帯に合せた排泄介助等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習慣やパターンに対応しながら、排泄の自立を支援することで、自立が可能になるよう誘導している。自立に近づいている例もある。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物、飲み物を個別に工夫。</li> <li>・水分チェック表による水分摂取での取り組み</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浴室に入室したり、希望する様子が見られた際など可能な限り、臨機応変な対応に心掛けている。</li> <li>・希望者の夜間の足浴。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴に消極的な利用者には、さまざまな動機付けを工夫しながら、入浴へ誘導している。</li> </ul>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こたつでの休憩等、可能。</li> <li>・他の方々の安眠に努めるため、徘徊者に配慮している。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投薬説明書を読んで把握に努めている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手打ちはっと、すいとんなど郷土料理を得意とすることの支援。</li> <li>・コーヒーの入れ方を得意とする方、盛り付けに拘る方など。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の希望にあわせ散歩や外出を行っている。</li> <li>・ミニバイクなどに家族参加を呼びかけるなどの支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の希望や季節などその時々状況に応じて、散歩をしている。2、3か月に一度は、家族にも参加を呼びかけてミニバイク(バスバイク)を行っている。</li> </ul>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・特にこだわりがないので所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・遠方にいる身内との関わりが密に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間を季節に応じた装飾をほどこす等、気持ちよく過ごせるような配慮をしている。	ソファやテーブルが置かれた共用空間が3ヶ所あり、1、2、3丁目という。玄関や台所に面した「2丁目」には掘り炬燵を配した畳敷きの小上がりもあり、利用者はその時々、それぞれの過ごし方であった場で時を過ごすことが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・1丁目、2丁目、3丁目とに分かれた空間があり、ソファ、こたつ、テーブル等、個々の好みの場を持てるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所前の説明文書に記載して推奨している。	板敷き(フローリング)と畳敷きの両方がある。当ホームは馬淵川の源流に近い風光明媚な環境にあり、窓からは四季の移ろいを楽しむことが出来る。部屋には家族の写真や、書道などの作品も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・個々の力のバランスにより過ごすスペースを考慮している。		